

のぞましい家庭教育のしおり

令和7年7月
第648号
刈谷市教育委員会
刈谷市児童生徒愛護会

～あさりのみそ汁～

明日の朝ご飯は あさりのみそ汁 朝から母が どろをはかせている
きたないものをはき出す あさりを見ると 今の自分を 情けなく思う
ねえ母さん 私も一晩水につかれば 少しはきれいに なれるかな

受験勉強をしている最中に、お母さんが夜食を作ってきてくれました。「お腹すいたでしょ。これ食べなさいよ」お腹もすいていたし食べたいと思ったのですが、勉強がはかどらずいらいらしてつい、「こんなものいらない」と、つぶねてしまいました。

お母さんは机に置いて言いました。「お腹すいたら食べなさいね」「あなたが好きなうどんにしたから、消化がよいから。遅くまで勉強するんでしょ、置いておくからね」

お母さんが部屋から出ようとしたとき、「冷えたら美味しくないし、まずいから下げておいて」と言ってしまいました。食べたいなと思ったけど、「っていうか私がいらいらしているのに気付かないの？ほんと、鈍感。いい迷惑」と言ってしまいました。

お母さんがお盆を持って下がっていくその後ろ姿を見ながら、私はなんてかわいげのない娘なのだろうと思いました。そして、呼び止めて「ごめん」と言う勇氣もありませんでした。

翌朝、お母さんのお茶碗の横にその冷めたうどんがありました。きっとお母さんは電子レンジで温めて自分で食べるのだろうなと思いました。キッチンを見ると、あさりがいっぱい砂出しをしていました。こんなふうに汚いものが出ていくのなら、私も水につかって汚いものを出したいなと思いました。

ある生徒が書いた作文です。思春期にさしかかる時期はなぜだか心落ち着かず、些細なことにいらいらしてしまいがちです。この作文を書いた生徒はそうした自分の心と向き合います。分かっているけど素直になれない思い、家族に対する申し訳なさを抱え、それを言葉にします。

家族の優しさや思いやりは、時に子にとっては受け止めがたいものなのかもしれません。でも、親の思いはきっと、時間がかかっても、子に届くもの。この作文は親と子の関係について悩んだときにそっと背中を押してくれる、私にとって忘れられない作文です。



一人で悩まないで、まず相談を

・刈谷市 子ども相談センター ～子どもに関する相談の総合的な窓口～

月～土曜 9時～17時（国民の祝日・年末年始を除く）

電話相談・来室相談

☎0566-62-6313

・愛知県 教育相談こころの電話 10時～22時 ☎052-261-9671